# 孝孫里見八犬傳

ろ

へ13
3704
5

門へ18
3704
5

原傳ハ出セルところの戸田川の繡像を見るに力二尺八寸裝束ハ中世
ゆくあるべきを。倡ハ素肌に画工のところハ知らねども。腹巻を
ぞ武者めきたるハ大塚よりの追隊の勢と。打交りその戦ひ乱
べ。何方ゆゑ分解らぬ故ハ。故意と画組を本文と遠ハ
書しのゆゑん。予も其心あるなりて。原傳のまく画せられごと。
這回ハ二個ゲ素肌でハ。後荒芽山の條下ハいろ。紀念の腹巻
臂擬當の。都合ゲあるなと看官の目角をやつけのゆゑんと先
達主人ハ捐ゆるまで紙上ありゲるハ言ひ出るも。又これ自己ゲ用
心のまに見るの上の誤りハこの末なれども多ゆゑん。懲ハ力二尺八寸画
組の例ハ推當て見るのあと願ふるゆゑん

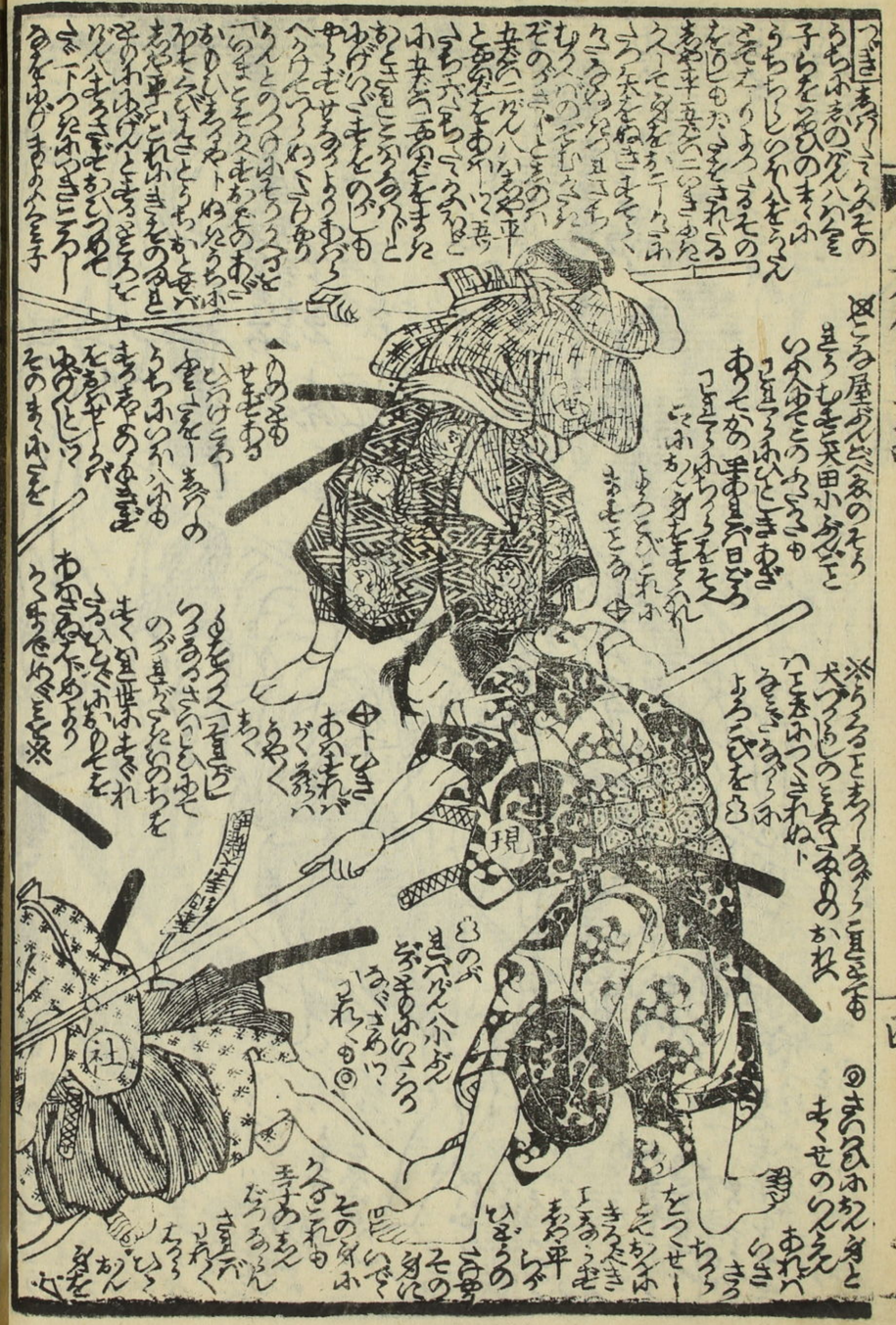
平安の孟春新鐫

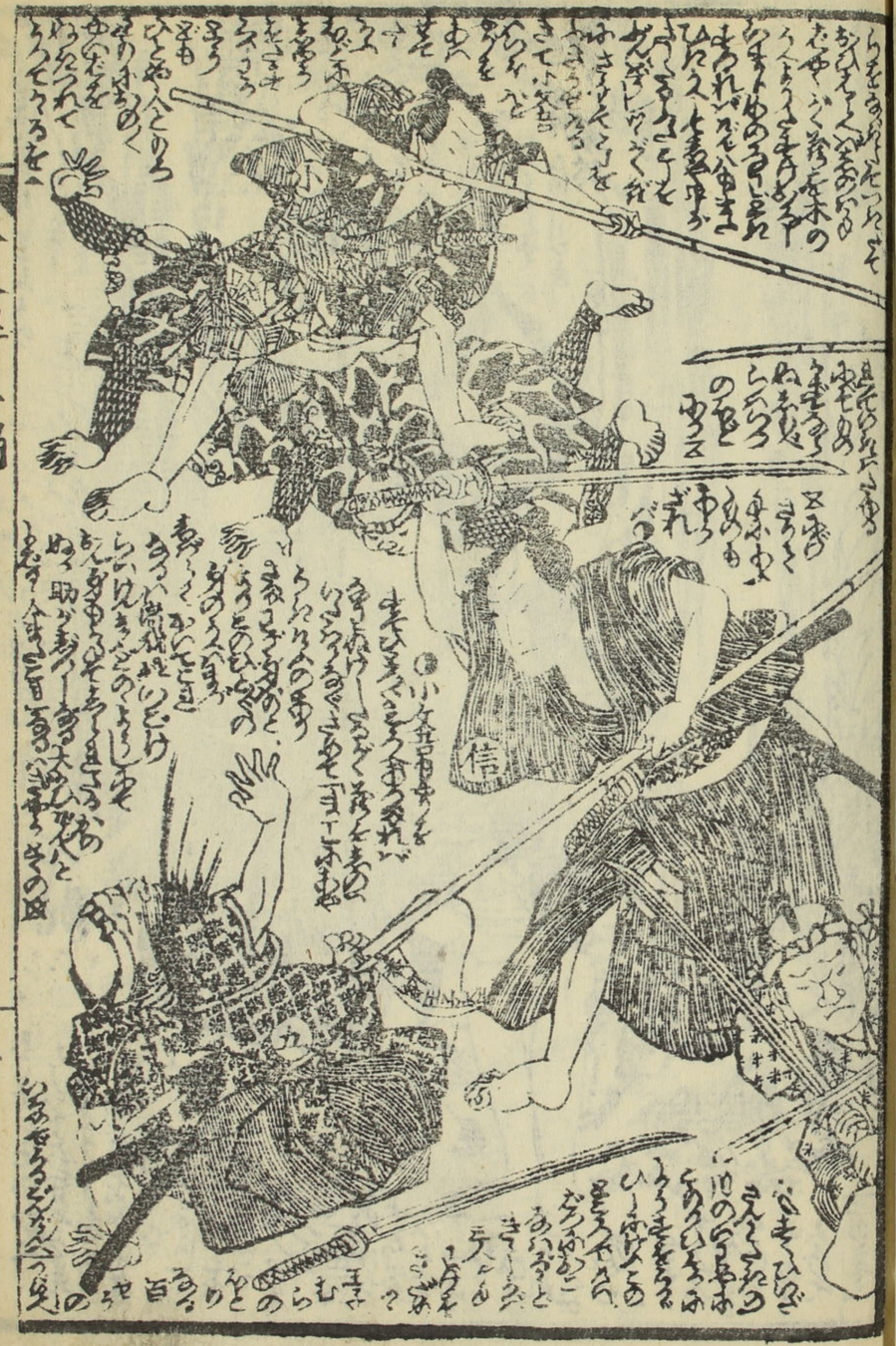
神宮川の漁父猟平
侍女音音
茅ヶ見し

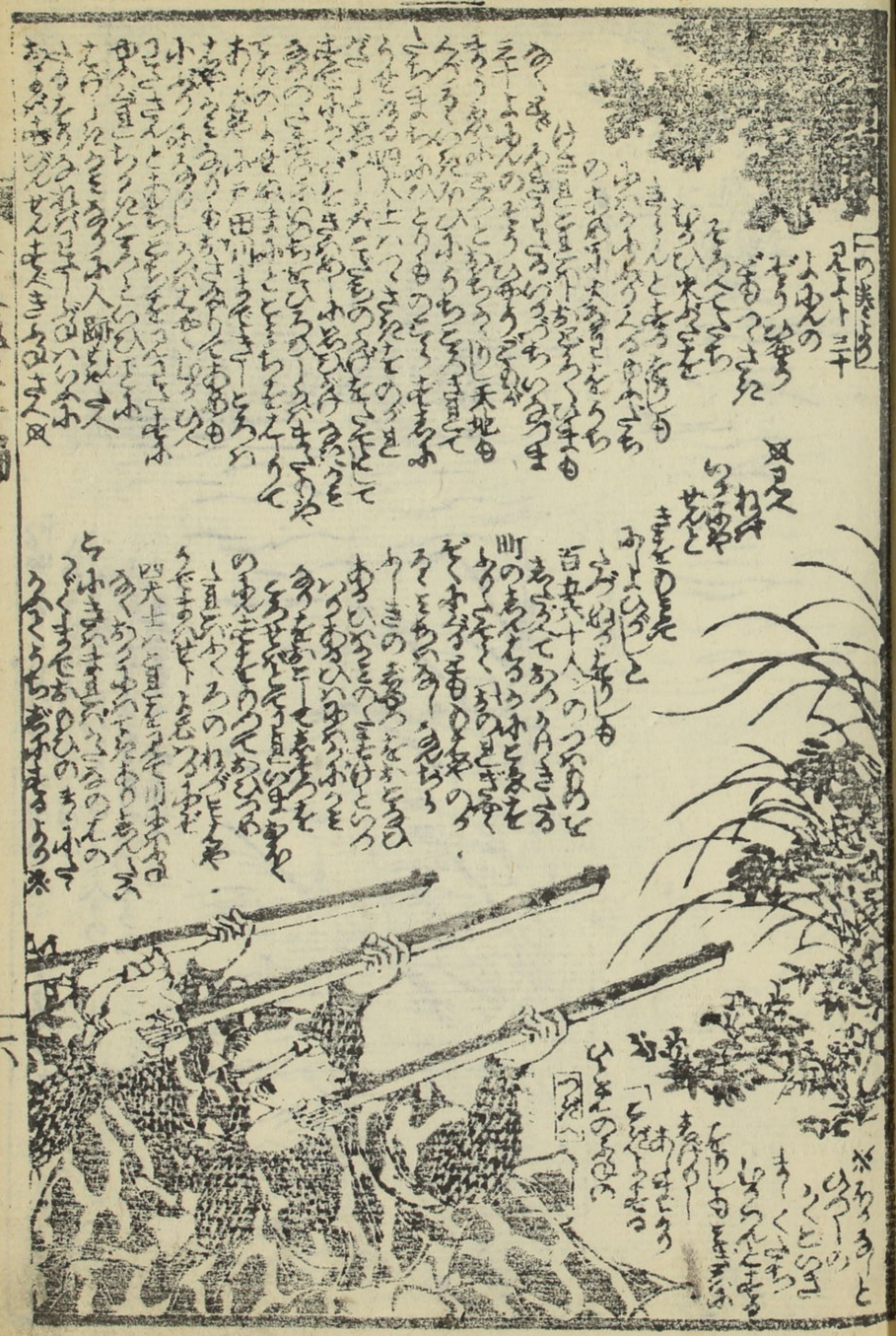
荒芽山の老女
若黨姥雪世四郎

十編よりつゞき

# 青面金剛


現
社

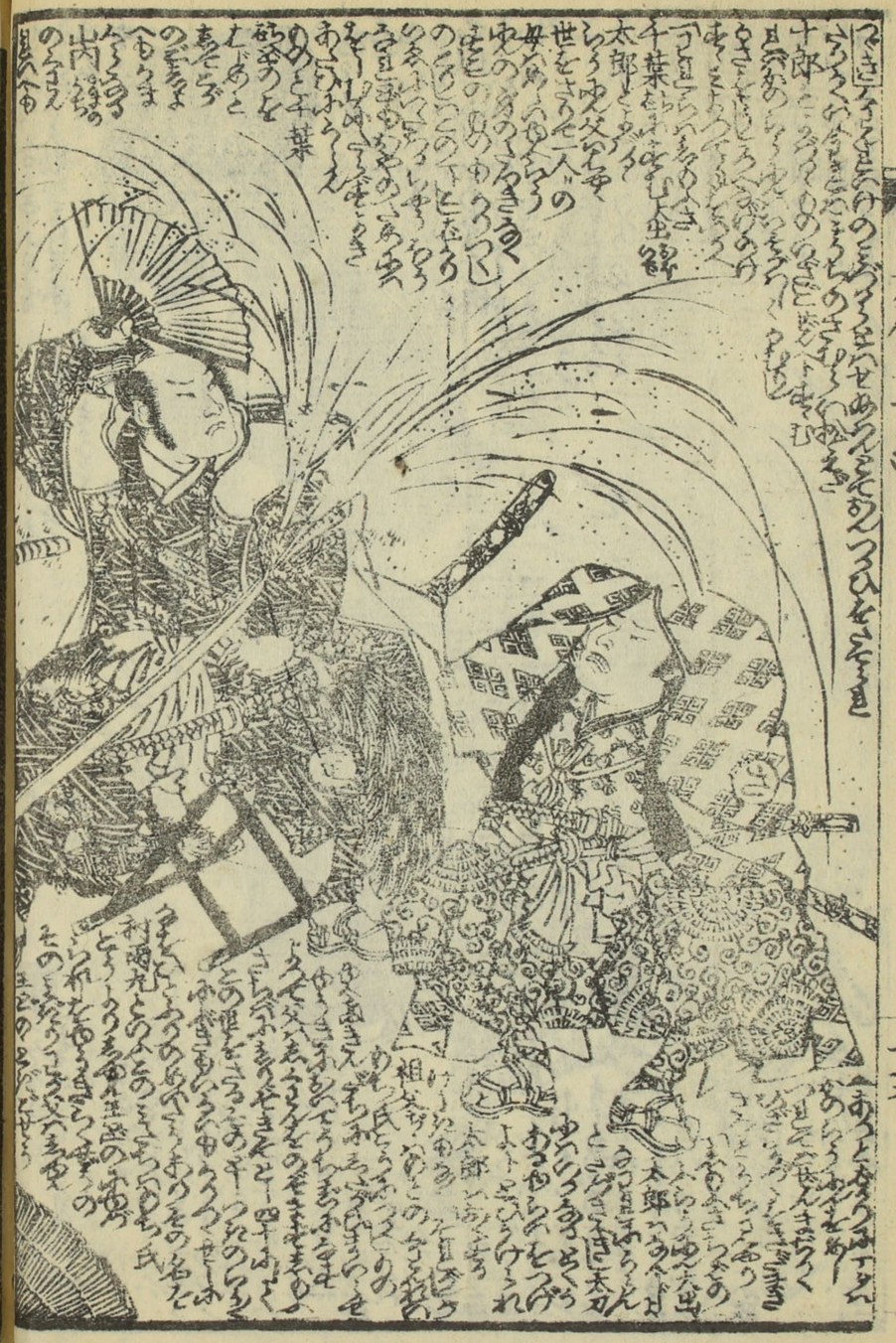

信

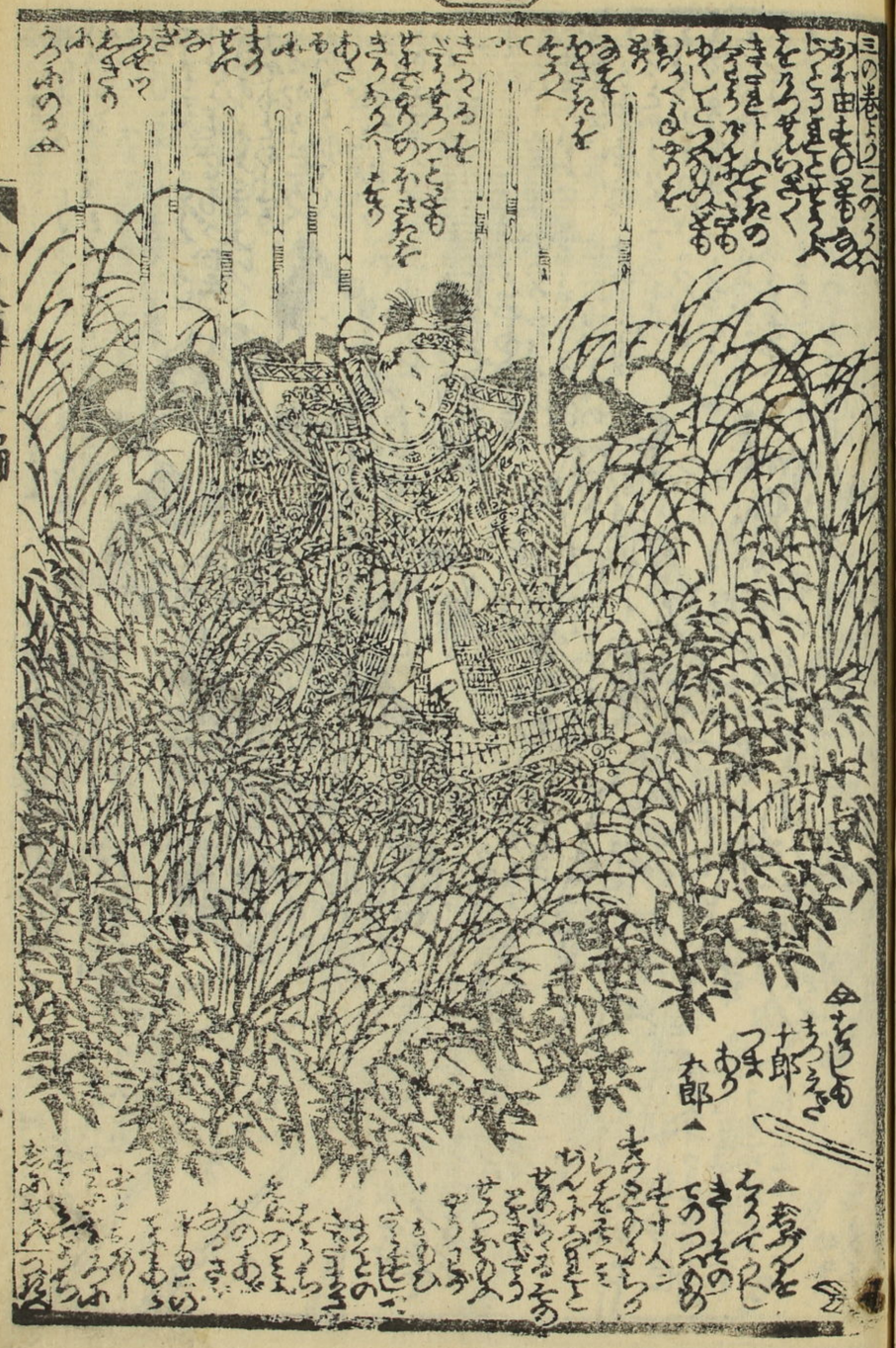


雷電神社
現
顯

信

國芳画





一勇齋國芳画

# 八犬傳十一編

## 巻之八

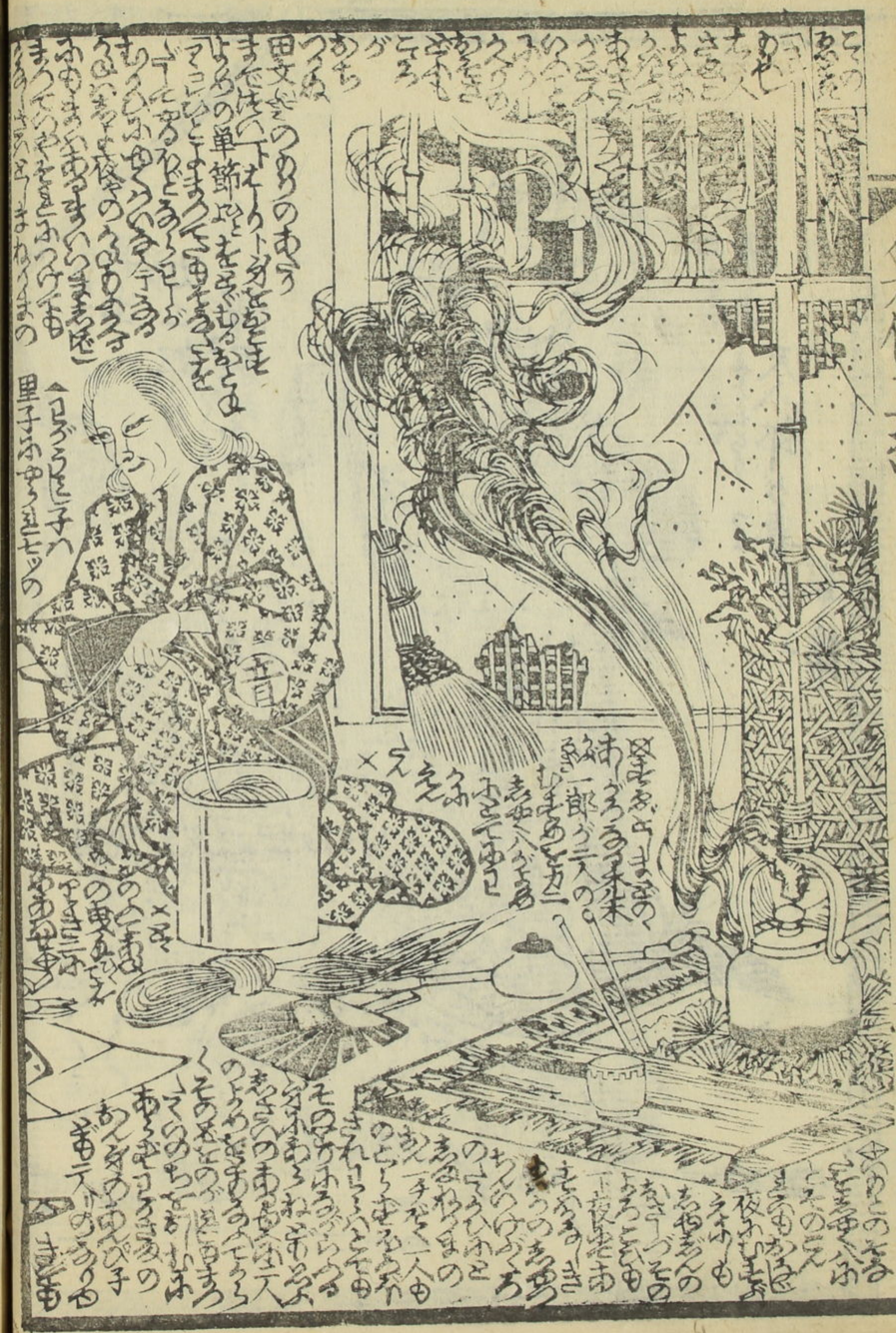
江南は橘も。江北へ種るとなれば。忽地化して枳となる。這は。水土風土によるものなれば。余が菓子も亦かり。曲亭の雅兄の南園に植て。梅は八房の芳しき名を其侭に予が北窓に假種して。筆は隨意培ふも。那枳子なるべし。最や多くしき綴ぶりに入梅は棋實と赤らむし。作者は顏も年あり。十の巻毎に言譯いと久しかりしと言ハれやせん。遮莫止べき支ふる稼バ只八房は一房ゆも。做得んもは唯ゆ。口を酸くして記せよ矣

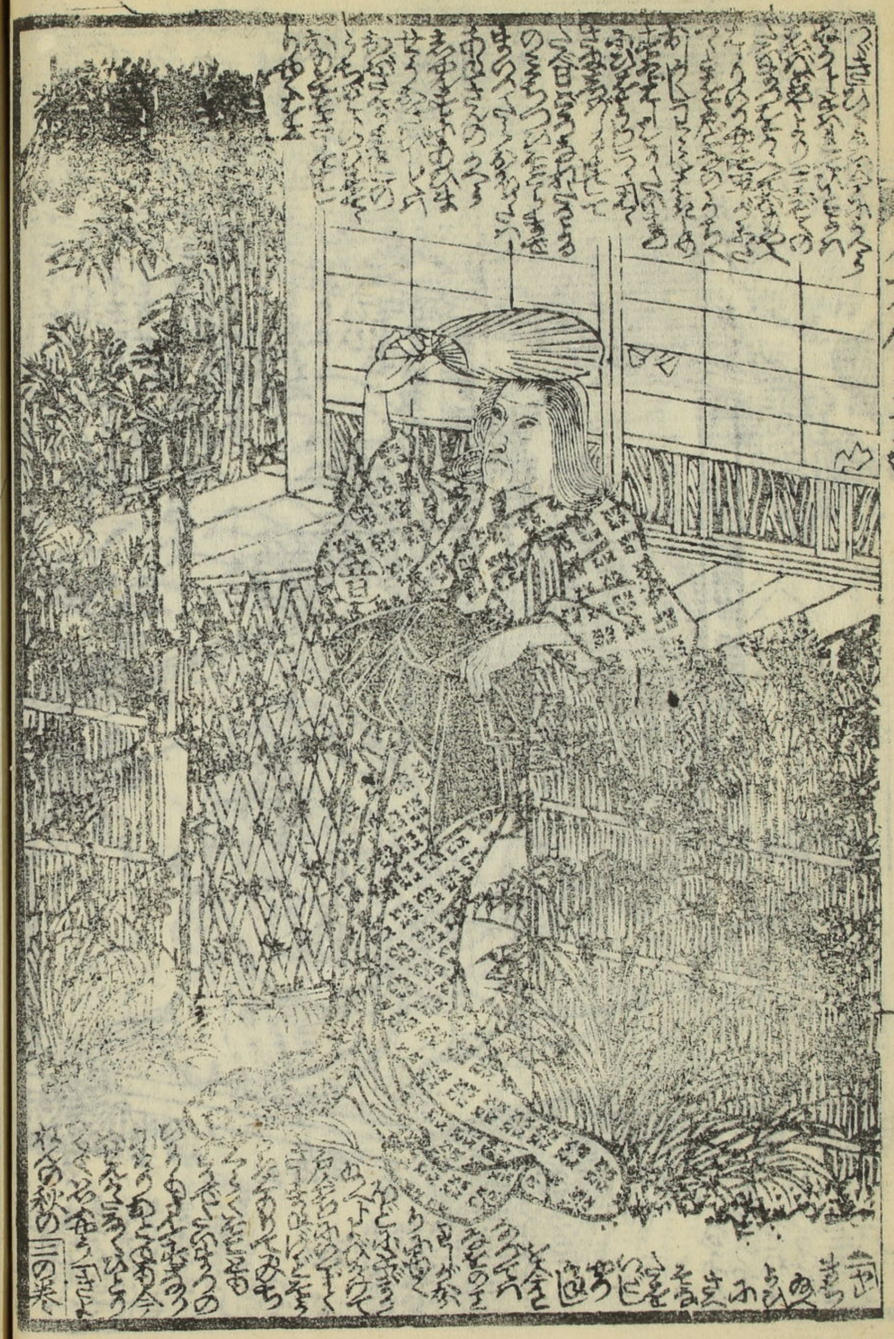
嘉永四支孟春新版

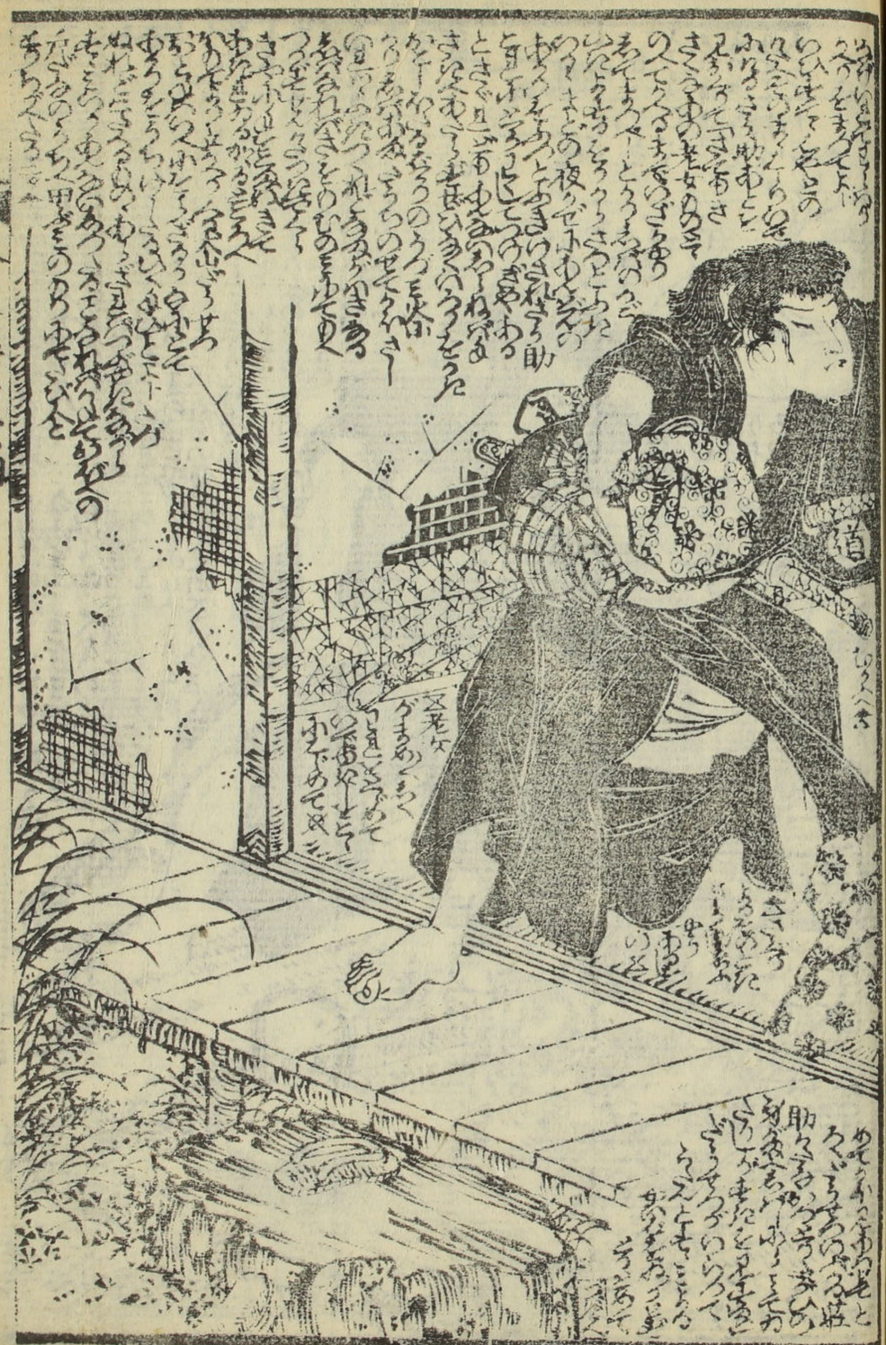
為永春水記

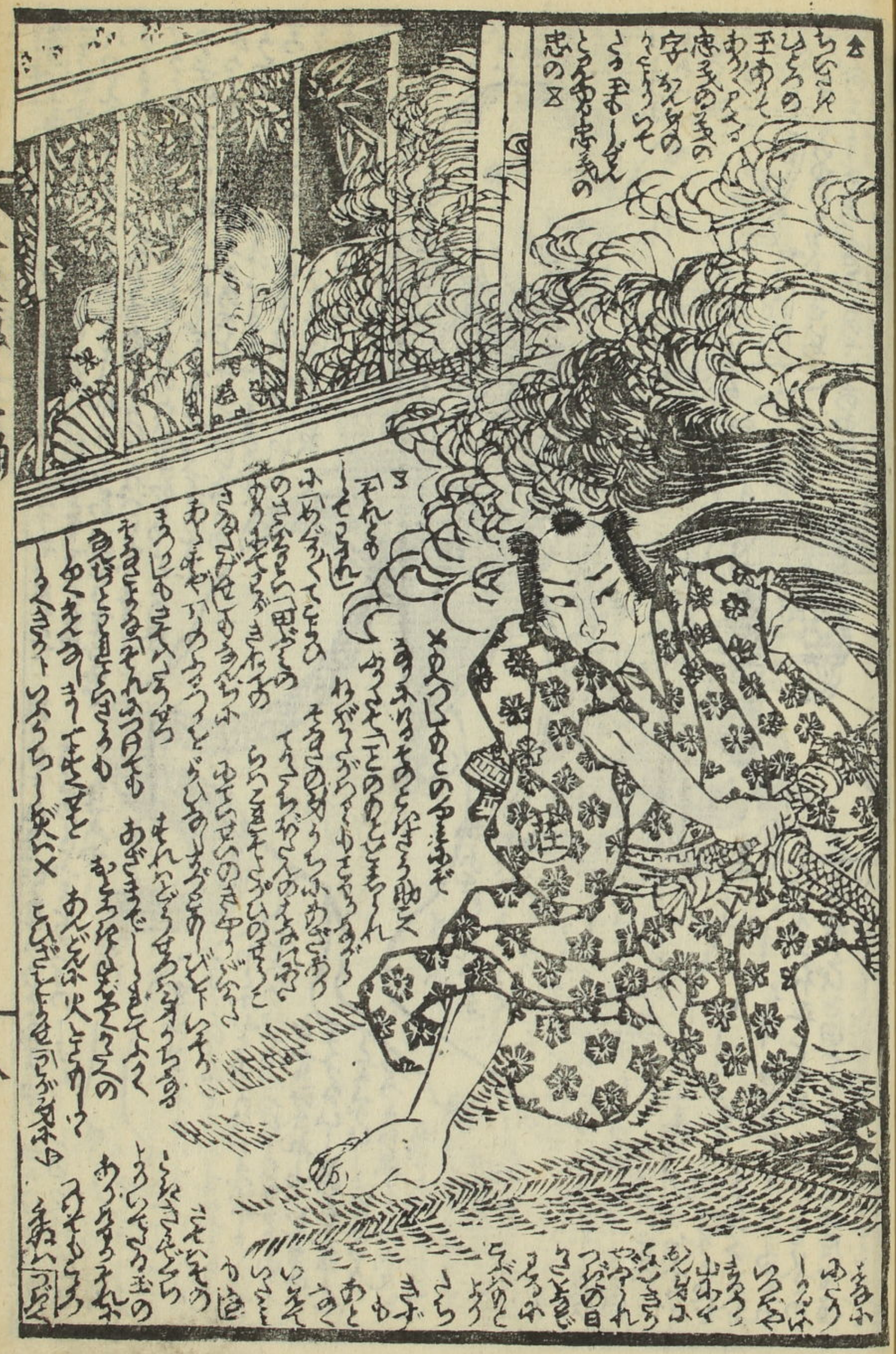
再出道松の妻
音音

再出
力二郎が
渾家曳手
再出
尺八郎が妻
單節



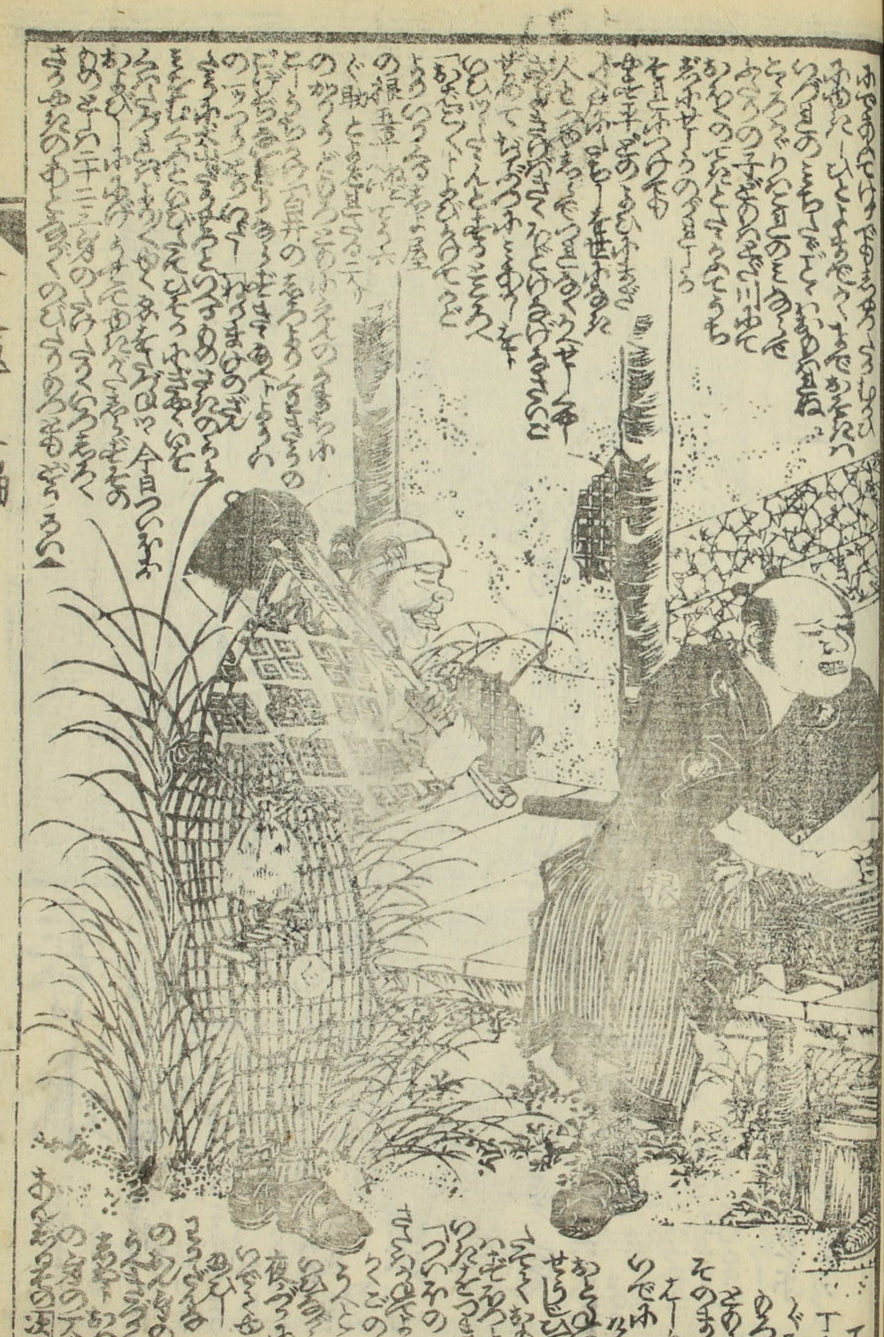




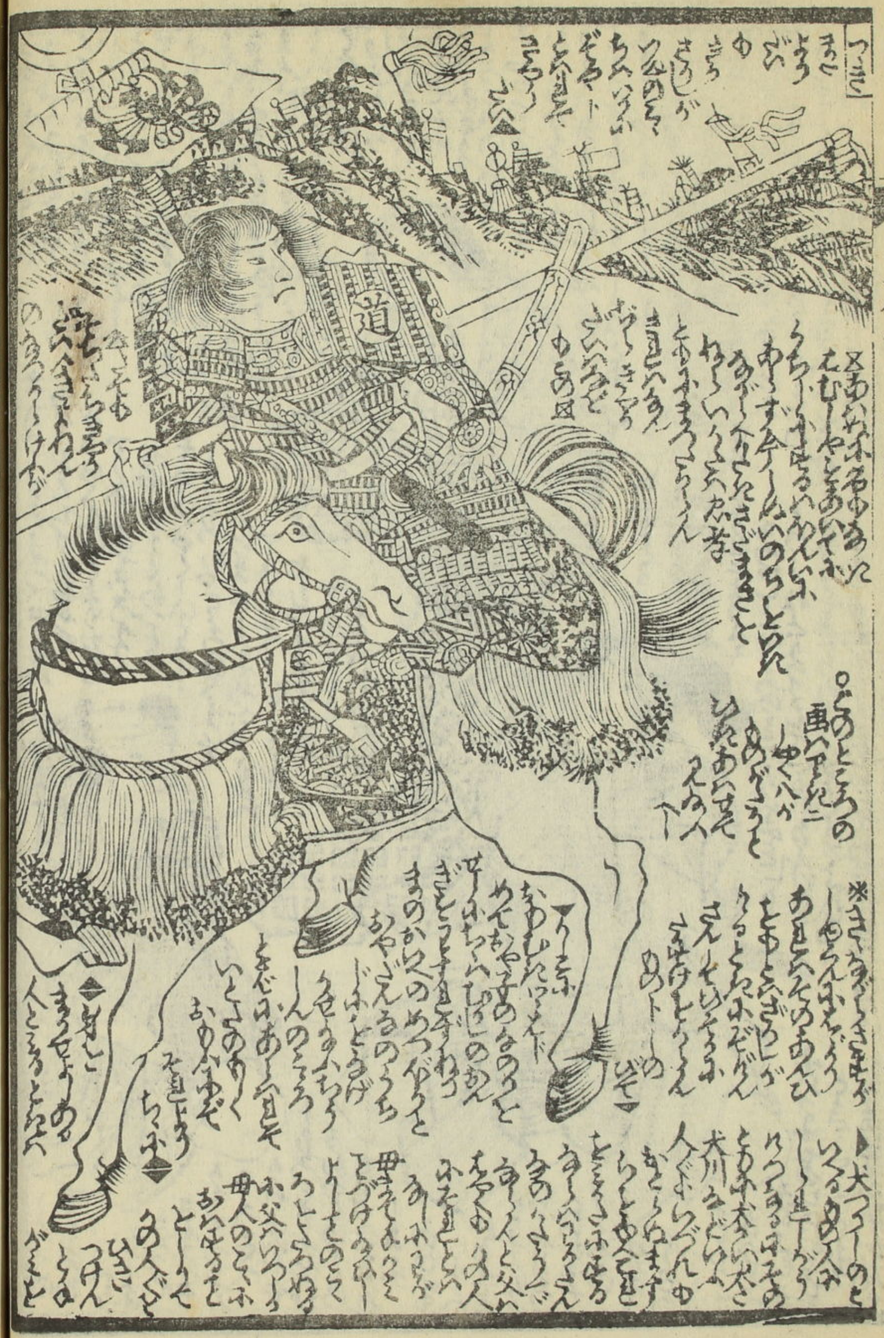


立日



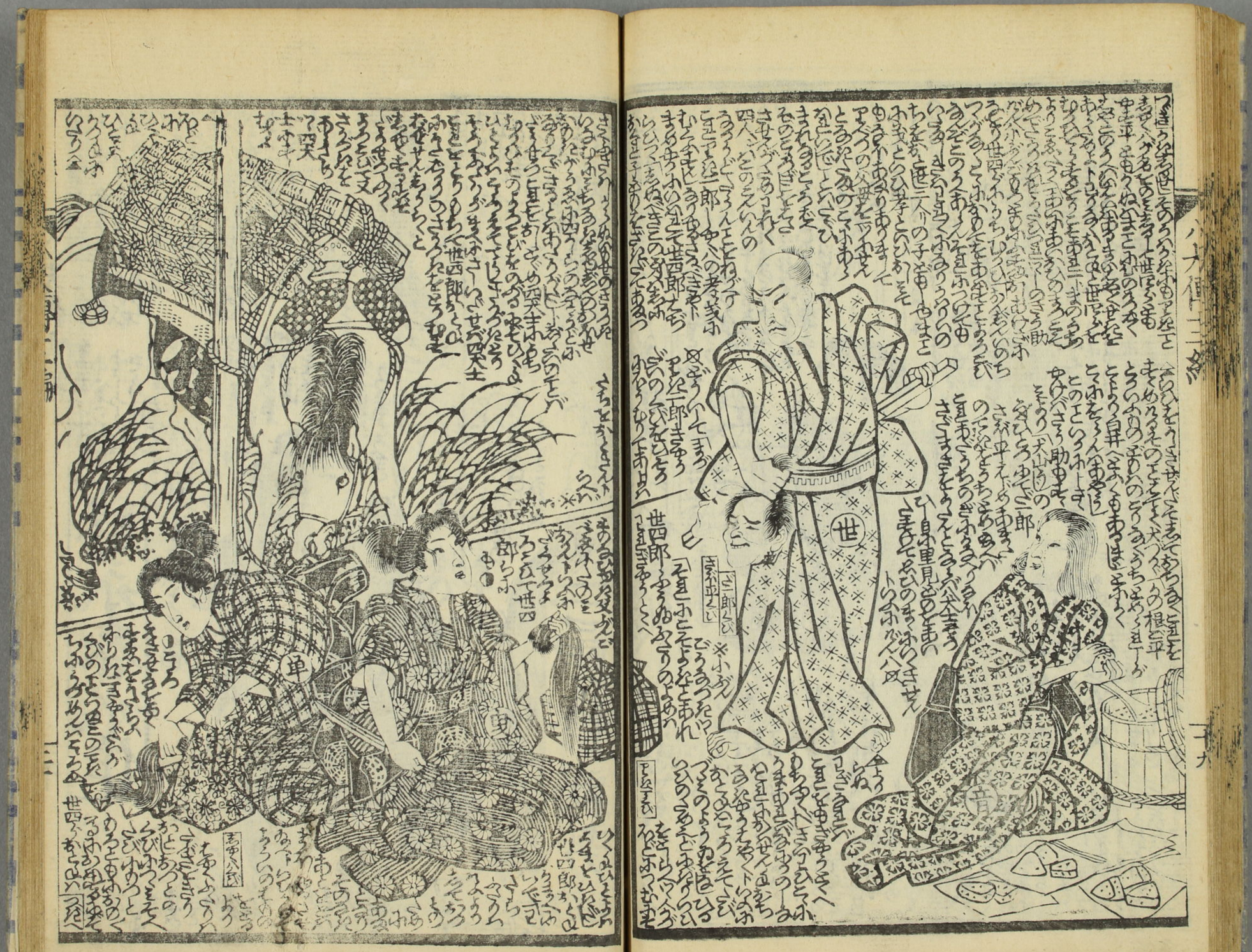


國芳畫
春水作


道

力
尺

卓
曳
信
道
世



生著述者は生情学ふ。綴り[illegible]小説題下飾字読八犬傳とよく[illegible]
一時の戯墨ぬるの。大姫冨山ふ自殺は後を。[illegible]
と但し立消なり。ハッの玉は[illegible]這策子[illegible]
[illegible]文溪堂の。煉獄ぬや。歳々編数積りて十三編。[illegible]六犬士出現して大坂
[illegible]犬村二犬士の。列傳は[illegible]遠[illegible]遊奥鄙小[illegible]言へ[illegible]
[illegible]州子ふ[illegible]。長く[illegible]出る[illegible]れど荒芽山は[illegible]今[illegible]
[illegible]。羅子も[illegible]。水滸傳の大筆なる。軍旅攻伐[illegible]
業[illegible]。今[illegible]三個は助友。[illegible]
[illegible]。[illegible]草双紙[illegible]同ド画組の重りや[illegible]
[illegible]。[illegible]。倘這[illegible]編を重ねて毛野が名[illegible]八百八人水陸三隊
[illegible]大合戦は。條[illegible]奈何やせん。[illegible]思ひ[illegible]腦太く。稍這輯[illegible]編
果せ[illegible]。嘉永[illegible]祝[illegible]。[illegible]
前年は睦月梅花中[illegible]筆を紙[illegible]

辛亥春新編

柳北の春水誌

賊婦宮の船虫

鷗尻の並四郎



一鎗我刺過て並四郎野猪に牙を掛られ支る本文を委し

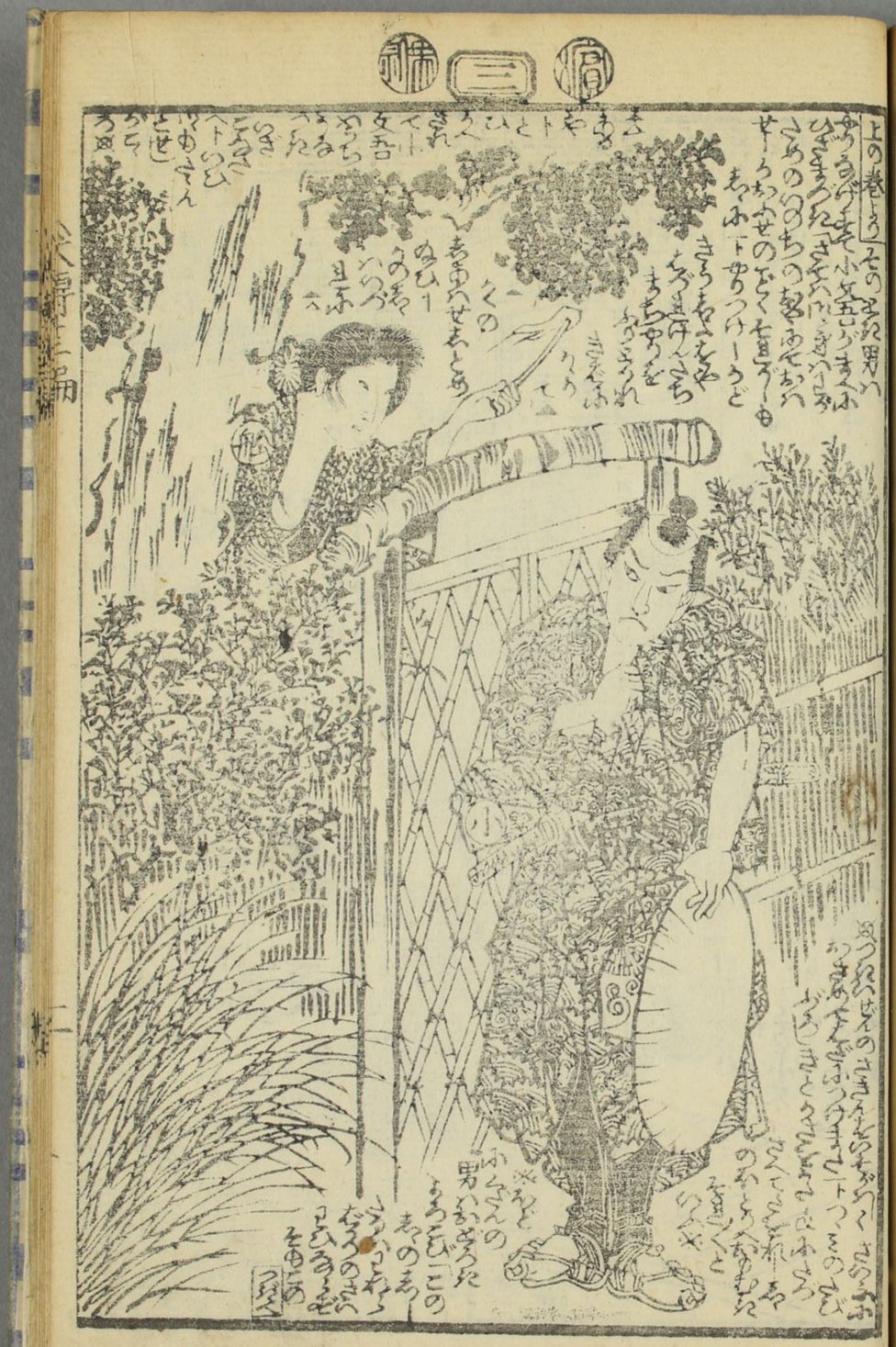
世四郎
吉



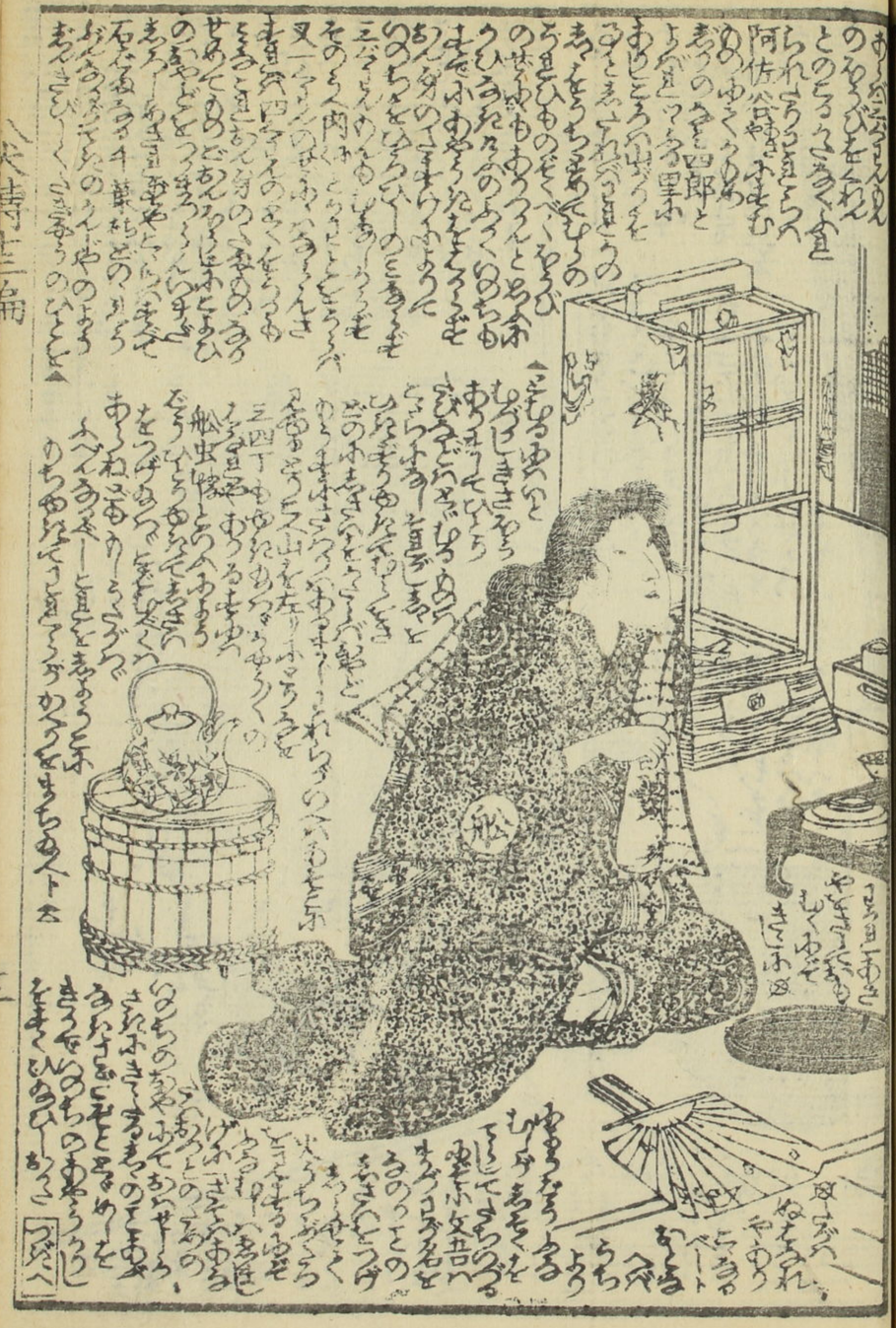


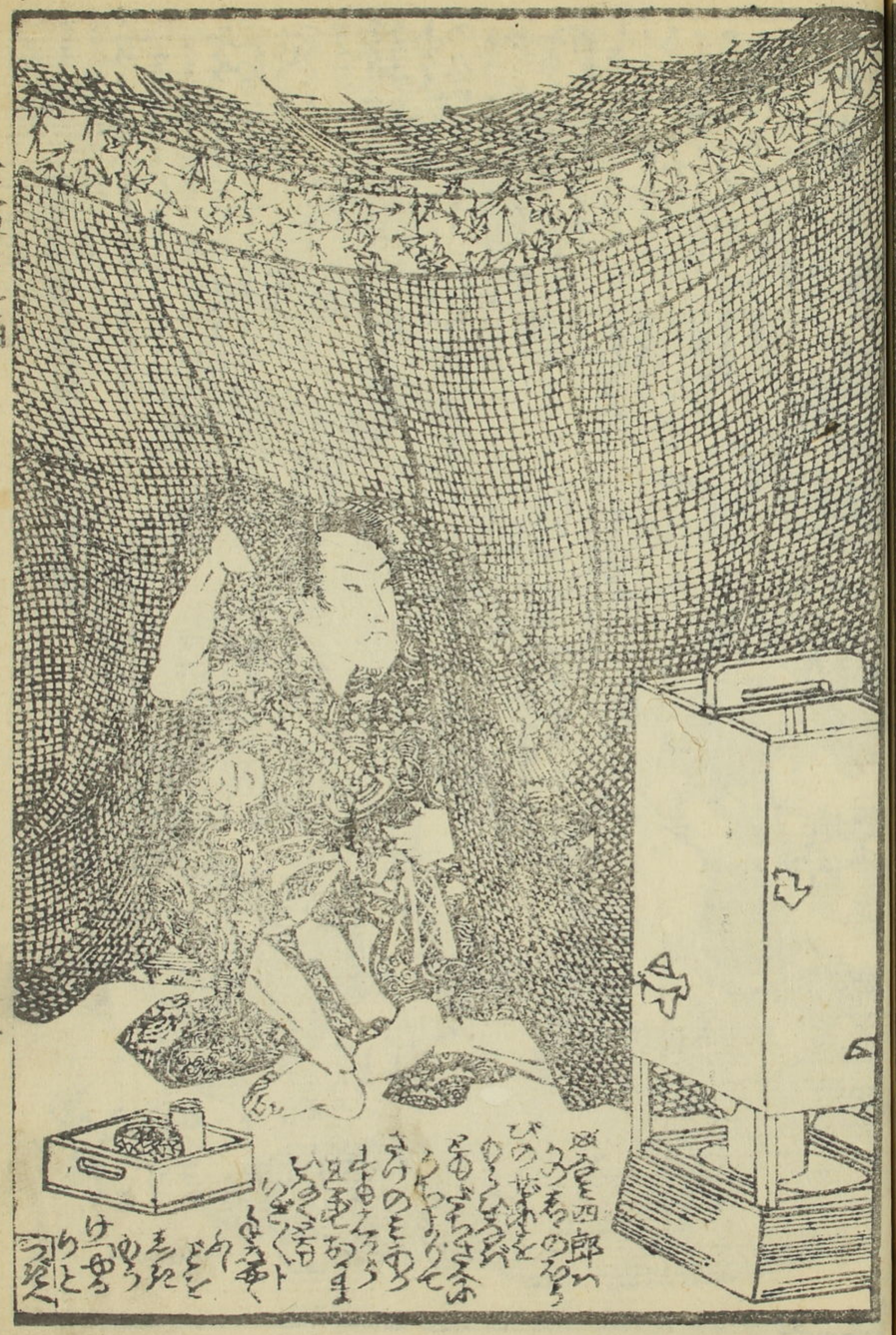
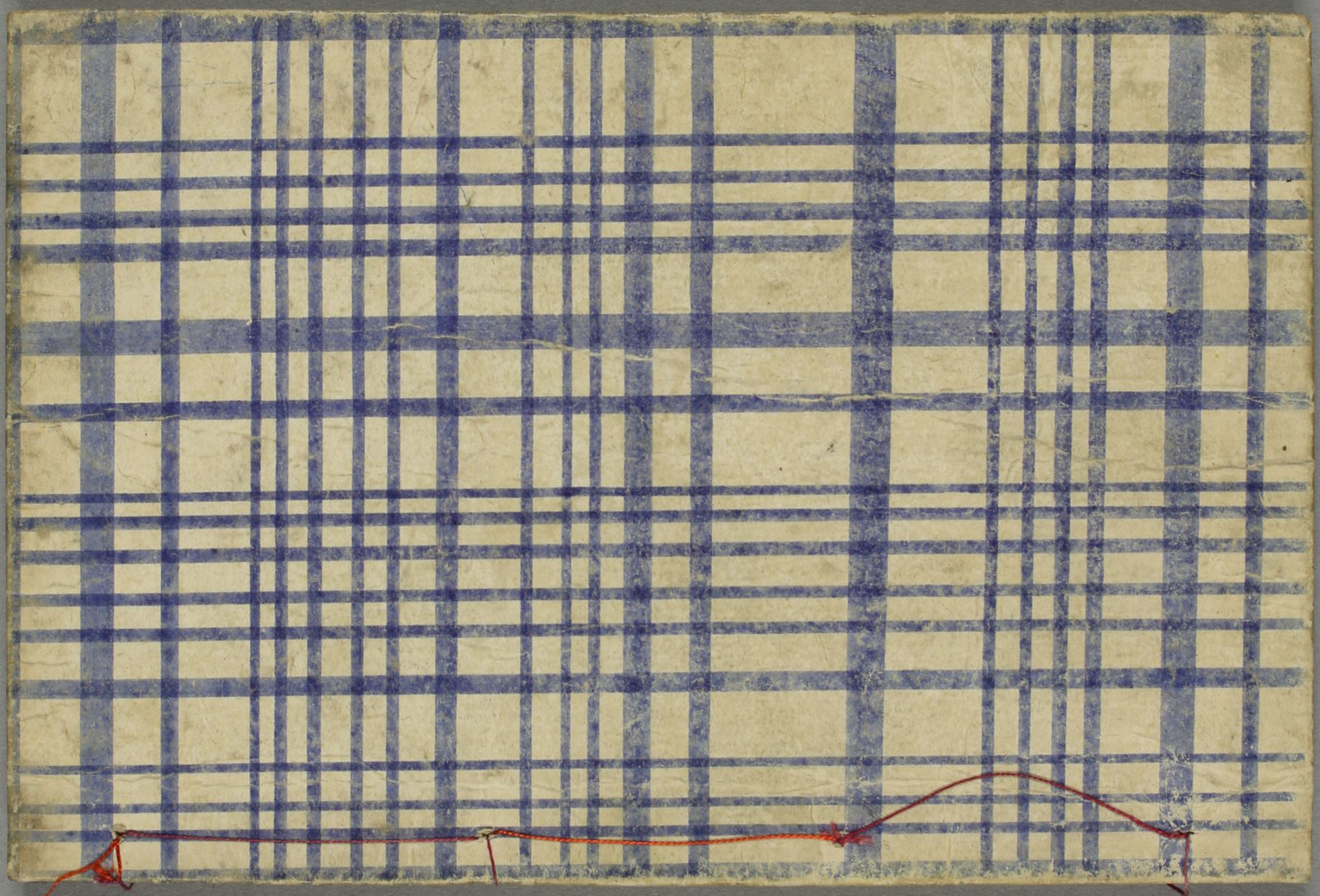

世四郎

小
六十人
武士
水野



國芳画





二勇齋國芳画